

シリーズ

昭和の歌人^{うたじと}たち

日本の歌謡史を彩った作家達

～第33回 山田耕筰～

(9月2日 ひの煉瓦ホール)

戦後の復興や高度経済成長を遂げた「昭和」。この激動の時代に、日本の音楽史に大きな足跡を残した作家に焦点をあて、時代背景とともにその作品と人物像を紹介するシリーズ。

今回取り上げたのは、『赤とんぼ』『この道』『からたちの花』など、日本人の心に生き続ける数々の歌を世に送り出した作曲家・山田耕筰氏。歌曲、オペラ、映画音楽など幅広い分野の楽曲の数々を紹介した。

【出演】川中美幸、クミコ、クリス・ハート、
斉藤功、佐藤和哉、島健、水森かおり、
三山ひろし、安田祥子 他

【ゲスト】長田暁二

【演奏】栗田信生とJ'sバンド

【司会】由紀さおり、石澤典夫

クリスチャンの家に生まれ、幼少時より西洋音楽に惹かれていた山田耕筰氏は、東京音楽学校を卒業後、作曲を学ぶためベルリンに留学。帰国後は、数々の作品を世に送り出す一方、廃れてしまった日本古来の民謡に光をあてることにも力を注いだ。



ゲストの長田暁二さん(中央)

今回のゲスト、音楽評論家の長田暁二さんは「山田氏が西洋音楽を日本に持ち帰ったことで、西洋音楽ばかり真似る風潮が強くなった。そのため、日本古来の歌を広めることにも使命感を持つようになり、民謡を発掘したり、編曲したりして世に送り出した」と功績を振り返った。その紹介を受けて、三山ひろしさんが、山田氏編曲による『梅は咲いたか』を、アコースティックギターの斉藤功さんと篠笛の佐藤和哉さんによる演奏をバックに堂々と歌い上げた。

冒頭で川中美幸さんが歌った『この道』は、北原白秋氏作詞による名曲の一つ。山田氏とのコンビで300近くの作品を世に送り出した北原氏は「自分のニュアンスどおりにメロディをつけてくれる」と、山田氏を非常にお気に入りだったという。クミコさんが、二人の最初の作品『曼珠沙華』を、水森かおりさんが『待ちぼうけ』を、安田祥子さんが『からたちの花』を披露した。

童謡以外にも、山田氏は校歌や自治体の歌などを数多く作曲している。1935(昭和10)年に新聞社からの依頼を受けて作曲し、夏の高校野球甲子園大会の入場行進曲

山田耕筰氏略歴

1886(明治19)年生まれ。東京音楽学校(現在の東京藝術大学)声楽科を卒業後、23歳でドイツのベルリンに留学し、作曲を学ぶ。帰国後は、日本で最初のオーケストラとなる東京フィルハーモニー会管弦楽部を組織。1925(大正14)年には現在のNHK交響楽団の母体となった日本交響楽協会を創設し、西洋音楽の普及につとめる。また、北原白秋や三木露風などその時代を代表する作詞家と数々の楽曲を世に送り出し、日本の音楽文化の礎を築いた。



1936(昭和11)年レジオン・ドヌール勲章、1956(昭和31)年文化勲章受章。1965(昭和40)年没。

として知られている『全国中等学校優勝野球大会行進歌』を、東京都立日野高等学校吹奏楽部の皆さんが演奏した。



コンサートの最後を締めくくったのは、様々なアンケート調査で、日本人が好きな歌の上位に必ず選ばれる名曲『赤とんぼ』。ステージに勢ぞろいした出演者と会場の聴衆が一体となり、時代を超えて愛される不朽の名作を合唱した。



川中美幸さん



クミコさん



水森かおりさん



安田祥子さん



三山ひろしさん



クリス・ハートさん